

第7号議案 名誉会員の推薦の件

平成19年3月に開催された第33回の理事会の決議により、小口雄康氏を名誉会員に推薦します。

小口氏の当学会での活躍は以下のとおりです。

小口氏は1988年から1995年の8年に互り理事を、また、1994年、1995年には編集委員長を務められる等、積極的に学会活動に尽力された。

研究発表や論文投稿は多岐にわたり、弾性波理論から計算機工学分野まで広範囲な研究成果をあげ、なかでも、異方性が表面波の分散に及ぼす影響や、対称軸が傾斜している直交異方性問題など、弾性体が持つ異方性の問題の重要性をいち早く取り上げ、一連の研究成果をあげた。またデジタル計算機が普及した後には、地震動記録に対するデジタルフィルター操作やそれらの特性の研究など、この分野における先駆的な研究を行ってきた。また近年はウェーブレット変換に興味を持たれ、一連の論文を物理探査学会誌上にも発表している。

一方、小口氏は優れた教育者でもあり、大学在職中には次世代を担う人材の育成に尽力され、優秀な技術者を数多く育てている。

このように学会運営、研究、さらには人材育成に活躍される等、物理探査発展への貢献は多大である。